

◎◎◎◎◎ 文彩第3号執筆者が薦めるこの一冊 ◎◎◎◎◎

芦津かおり 大谷大学助教授

シェイクスピア『ハムレット』（翻訳書はちくま文庫、白水社、新潮文庫など多数）

- 「文学のモナリザ」ともいわれる作品で、きっと「わけわからん」と思う人も多いと思いますが、若い時の「わけのわからない」読書体験はとても貴重です。

梅林誠爾 本学教授

福沢諭吉『福翁自伝』（岩波文庫など）

- とりわけ維新以前の部分、青年諭吉が様々な葛藤を経て自らの人生を見出していく過程がおもしろい。

川平敏文 本学助教授

ドストエフスキー『罪と罰』（岩波文庫ほか）

- 文章が立ち上がってくるような感覚に襲われます。

坂井 隆 本学講師

三島由紀夫『近代能楽集』（新潮文庫）

- 人の情念の凄みに圧倒されると同時に三島が書く日本語の美しさに魅了されます。

清水啓子 本学助教授

中山元『高校生のための評論文キーワード100』（ちくま書房）

- 西洋哲学・思想にかかわる様々な概念をわかりやすく丁寧に解説した新書本。無味乾燥な単なる用語解説ではなく、読める本。大学生にも読んでほしい。

鈴木 元 本学助教授

ブロスベル・メリメ『エトルリヤの壺』（岩波文庫）

- 高校時代に「お勉強」から逃避して耽読した短編集

難波美和子 本学助教授

アーシュラ・K・ル・グイン『闇の左手』（ハヤカワ文庫SF）

- 『ゲド戦記』の作者でもあるル・グイン初期の代表的SF作品。世界の見方が変わるかも。

半藤英明 本学教授

山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）

- 難しそうな日本語の歴史が、面白く、よく分かる一冊です。

馬場良二 本学教授

パール・バック『大地』（いくつかの出版社から出ています）

- 20世紀初頭、激動の中国で生き抜く男の物語です。

三木悦三 本学教授・文学部長

坂村真民『坂村真民一日一言』（致知出版）

- 「本当に偉い人は マザー・テレサのように 素足にサンダルを履き 極貧下の人たちに 一生を捧げる人である」（詩「本当に偉い人」より）

水尾文子 本学助教授

河合隼雄『ファンタジーを読む』（講談社+α文庫）

- 心理療法家が読み解く児童文学

元吉瑞枝 本学教授

イヴォ・アンドリッチ、松谷健二訳『ドリナの橋』（恒文社）

- 旧ユーゴのノーベル賞作家アンドリッチの代表作

山崎健司 本学教授

清岡卓行『詩礼伝家』（講談社文芸文庫）

- 私小説ふうの詩人論。文学の香気に溢れる名著

山田 俊 本学教授

堀米庸三『正統と異端—ヨーロッパ精神の底流』（中公新書）

- キリスト教における政治と宗教の矛盾を、正統と異端という角度から考えた著書

（執筆者氏名の順序は五十音順）

熊本県立大学文学部

『文彩 BUN-SAI』 第3号

\* 発行 2007年3月15日

\* 発行所 熊本県立大学文学部

熊本市月出3丁目1番100号

\* 印刷所 ホープ印刷株

熊本市龍田弓削1丁目4番12号

\* 表紙原画デザイン 長野理沙

<小特集：シェイクスピア万華鏡>

第3回文学部フォーラムを終えて ..... 三木 悦三

●特別寄稿

大谷大学助教授 荻津かおり

「日本の『ハムレット』受容——その多様な変貌」

●シェイクスピアと言語学

認知言語学からみたシェイクスピア ..... 清水 啓子  
——メタファー理論を中心にして

●シェイクスピアと映像

仮面舞踏会がはじまる——『ロミオとジュリエット』と映像 ..... 坂井 隆

\*

\*

●バークレイで英文法に出会う

アスパラガスの数え方 ..... 清水 啓子  
——英文法を考える(一)可算名詞と不可算名詞

●人気小説から文化を読む

階級社会がアブナイ!? ——Harry Potterと英国教育事情 ..... 水尾 文子

●昔話の中の女性

歌うシンデレラ ..... 難波美和子

●或る旅のノート

イヴォ・アンドリッチの故郷ポストニアを訪ねて ..... 元吉 瑞枝

●あやしくスリリングな楽曲の詞を音声学的に分析してみました

スガシカオ「19才」 ..... 馬場 良二

\*

「文化財指定と社会的効果」プロジェクトの活動について ..... 山崎 健司

\*

●朱子学と太極拳

続 軀しんたいで読む文献テクニスト ..... 山田 俊

●近代熊本の学僧

佐田介石をたずねて(続) ..... 梅林 誠爾

●表現の仕組みを考える

「強調」の働きと表現効果 ..... 半藤 英明

●徒然草の再発見

恋する兼好 ..... 川平 敏文

●連歌の中の遊びと約束

遊戯ゲームの規則——賦物について ..... 鈴木 元